

KDDI ホスティングサービス (G120, G200)

活用ガイドブック

ASP.NET 利用ガイド

(ご参考資料)

rev.1.0

KDDI 株式会社

(目次)

1. はじめに.....	3
2. 開発環境の準備.....	3
2.1 仮想ディレクトリーの作成.....	3
2.2 ASP.NET のWeb アプリケーション開発環境準備.....	7
3. データベースの作成.....	10
3.1 データベースの追加.....	10
3.2 テーブルの作成.....	12
3.3 テーブルデータの作成.....	15
4 ASP.NET Web アプリケーションの作成.....	17
5 ASP.NET Web サイトの表示.....	23

1. はじめに

このASP.NET 利用ガイドでは Visual Studio 2005 Express Edition に含まれるVisual Web Developer 2005 とホスティングサービスにて提供しておりますデータベースを活用した簡単なASP.NET サイトの構築方法について記載致します。

※ご注意

ASP.NET の仕様やプログラミング方法などは、サポート対象外となります。
詳細については、書籍または Microsoft 社のサイト等をご活用ください。

事前に、Visual Web Developer 2005 のインストールが必要になります。

又、パッケージ版のMicrosoft Visual Studio 2005 Standard Edition 、 Microsoft Visual Studio 2005 Professional Edition を活用頂くと より高度な開発を行う事が出来ます。

Visual Web Developer 2005

<http://www.microsoft.com/japan/msdn/vstudio/express/vwd/>

2. 開発環境の準備

クライアント開発環境の準備 及び コントロールパネルでのWeb サーバーの設定について説明致します。

2.1 仮想ディレクトリーの作成

コントロールパネルにて、WEB コンテンツのファイルをアップロードする為の仮想ディレクトリーを作成します。

- ① コントロールパネルの左ペインにて [ドメイン名] - [ドメイン管理] を選択します。右ペインより、アプリケーションを配置するドメイン名を選択します。

KDDI ホスティングサービス

サーバー管理 | アカウント管理 | 契約の選択

アカウントID: [] ログアウト

Screen ID: []

メニュー

- ドメイン名
- ドメイン管理
- ウェブサイト
- eメール
- ユーザー
- 統計と分析

ドメイン管理

検索: ID: [] ドメイン名: [] ウェブホスティング: [] メールホスティング: [] 同期: [すべて] 有効: [すべて] >

新しいサブドメイン名の追加 | サブドメイン名を表示しない

ID	ドメイン名 ▲	ウェブホスティング	メールホスティング	同期	有効
31699	kddi.collaby.com	Microsoft IIS 6.0 (ウェブスペース 125325)	Qmail	● (はい)	● (はい)
33714	m.test.kddi.collaby.com	Microsoft IIS 6.0 (ウェブスペース 125325)	Qmail	● (はい)	● (はい)
33638	sub1.kddi.collaby.com	Microsoft IIS 6.0 (ウェブスペース 125325)		● (はい)	● (はい)
33645	test.kddi.collaby.com	Microsoft IIS 6.0 (ウェブスペース 125325)		● (はい)	● (はい)

合計4 アイテム

1ページあたりの表示数: 25 50 100

合計4 アイテム

1ページあたりの表示数: 25 50 100

② 右ペインの [ウェブ管理] タブをクリックします。



③ 右ペインの [仮想ディレクトリ] をクリックします。



メモ:

仮想ディレクトリとは、別の場所の物理ディレクトリーを、Web サイトのホームディレクトリーのサブディレクトリーとして割り当てることにより、あたかも、その場所に存在するように見せる方法。

④ [仮想ディレクトリーの追加]をクリックします。



- ⑤ 仮想ディレクトリーの追加画面が表示されます。[ディレクトリー名] [説明] を入力 又、
[ディレクトリーのタイプ] を選択しディレクトリーへのパスを入力します。[次へ] をクリックします。(説明欄
は任意)

サーバー管理 > メニュー > ドメイン名 > ドメイン管理 > sub1.kddi.collabv.com > ウェブ管理 > 仮想ディレクトリ

Screen ID: [] [リフレッシュ]

仮想ディレクトリーの追加

全般

ディレクトリー名:

説明:

ディレクトリーのタイプ:

ディレクトリーへのパス:

(物理的なディレクトリーへのパスは、ウェブスペース内の「/wwwroot」ディレクトリーが基準になります。ディレクトリーが存在しない場合は自動的に作成されます。)

転送:

(転送先URL)

次へ >> キャンセル

メモ:
ディレクトリーのタイプとは
このリソースへの接続時に使用される 実際のコンテンツの場所になります。

- ⑥ 仮想ディレクトリーの [権限] [認証] の設定を行います。各項目にチェックを入れた後 [完了] をクリック
します。

サーバー管理 > メニュー > ドメイン名 > ドメイン管理 > sub1.kddi.collabv.com > ウェブ管理 > 仮想ディレクトリ

Screen ID: [] [リフレッシュ]

仮想ディレクトリーの追加

権限

スクリプトソースアクセス:

読み取り:

書き込み:

ディレクトリーの参照:

実行アクセス許可:

認証

匿名アクセス:

統合Windows認証:

ダイジェスト認証:

基本認証:

<< 戻る

完了 キャンセル

□ 権限

- スクリプトソースアクセス : スクリプトソースへのアクセス可／不可を選択。
- 読み取り : ファイルの読み取り可／不可を選択。
- 書き込み : ファイルの書き込み可／不可を選択。
- ディレクトリーの参照 : 仮想ディレクトリーの内容を参照可／不可を選択。
- 実行権限 : 『なし』／『スクリプトのみ』／『スクリプトおよび実行ファイル』より、実行権限を選択。

□ 認証

- 匿名アクセス : 全てのユーザーのアクセスを許可する事が可能。
- 統合されたWindows 認証 : ユーザー情報は暗号化されて送信される認証方法。
有効なWindows NT ユーザーアカウントに合致する情報を入力したユーザーのみ認証される。
IIS ウェブサービスでは FTP アカウントを利用した認証が可能。
- ダイジェスト認証 : 解読不能な方法でユーザー情報を送信される認証方法。
有効なWindows NT ユーザーアカウントに合致する情報を入力したユーザーのみ認証される。
IIS ウェブサービスでは 仮想ディレクトリに対する FTP アカウントを利用した認証が可能。
- ベーシック認証 : 基本的な認証方式。
有効なWindows NT ユーザーアカウントに合致する情報を入力したユーザーのみ認証される。
IIS ウェブサービスでは FTP アカウントを利用した認証が可能。

⑦ ステータスが 準備完了になると仮想ディレクトリーがご利用頂けます。

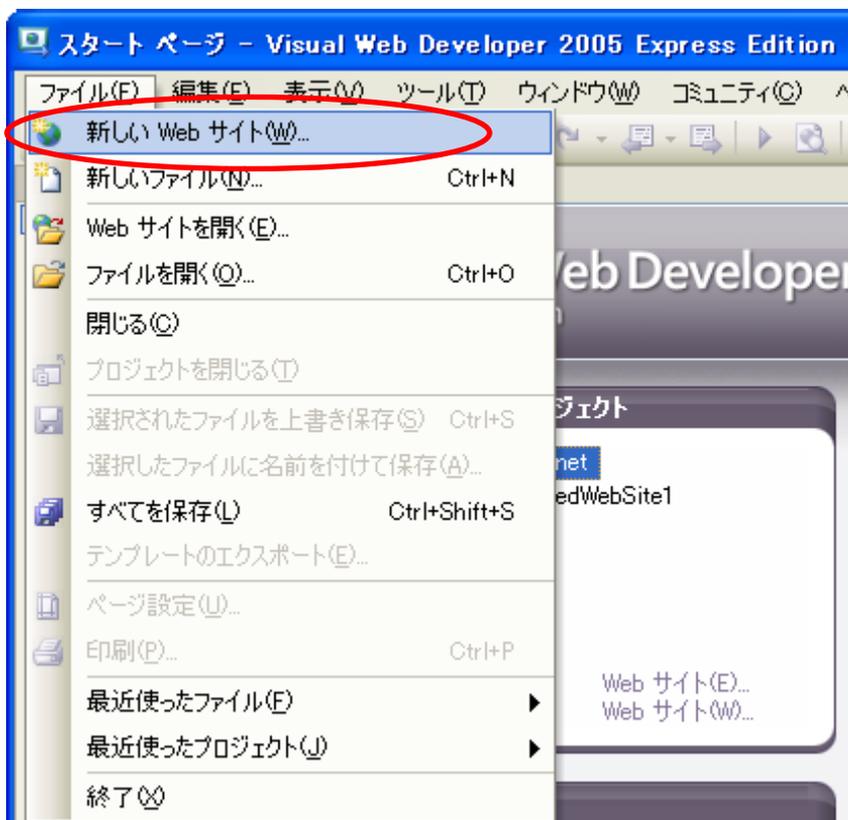
The screenshot shows the control panel for 'sub1.kddi.collaby.com'. The '仮想ディレクトリ' (Virtual Directories) tab is selected. A search bar is visible with fields for name, type, path, ownership, and status. Below the search bar, there is a table of virtual directories. The first entry is '79489 sample_aspnet' with type '物理的' (Physical) and path '/wwwroot/sample_aspnet'. The 'ステータス' (Status) column for this entry shows a green circle and the text '準備完了' (Ready), which is circled in red in the original image.

ID	名前	タイプ	パス	オーナーシップ	ステータス
79489	sample_aspnet	物理的	/wwwroot/sample_aspnet	ユーザー	準備完了

2.2 ASP.NET のWeb アプリケーション開発環境準備

Visual Web Developer 2005 にて、Visual Basic を用いた ASP.NET のWeb サイトを開発する環境を準備します。(Visual Studio 2005 の他のエディションも同様の操作手順となります。)

- ① Visual Web Developer 2005 を起動し [ファイル] - [新しいWeb サイト] を開きます。



②テンプレートを選択します。「ASP.NET Web サイト」を選択します。

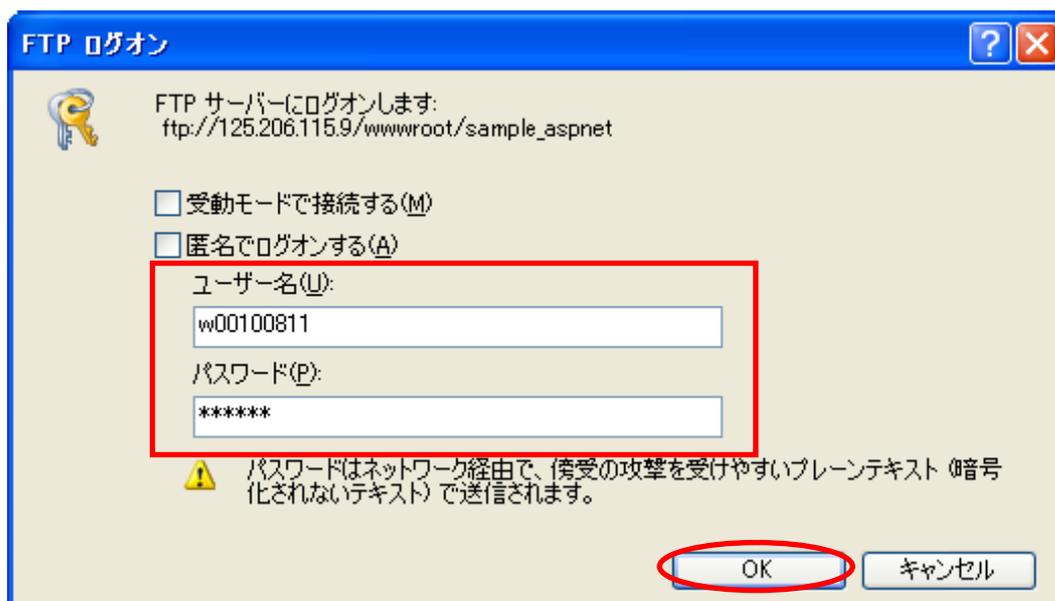
次に、[場所] をFTP に変更し [参照] をクリック FTP サーバーのURL を選択します。[OK] をクリックします。

※FTP サーバーのIP アドレスは、PEM コントロールパネルの[設定と管理] - [ウェブサイト] - [ウェブサイトの設定] の右ペインでFTP サーバーのIP アドレスを確認する事が出来ます。

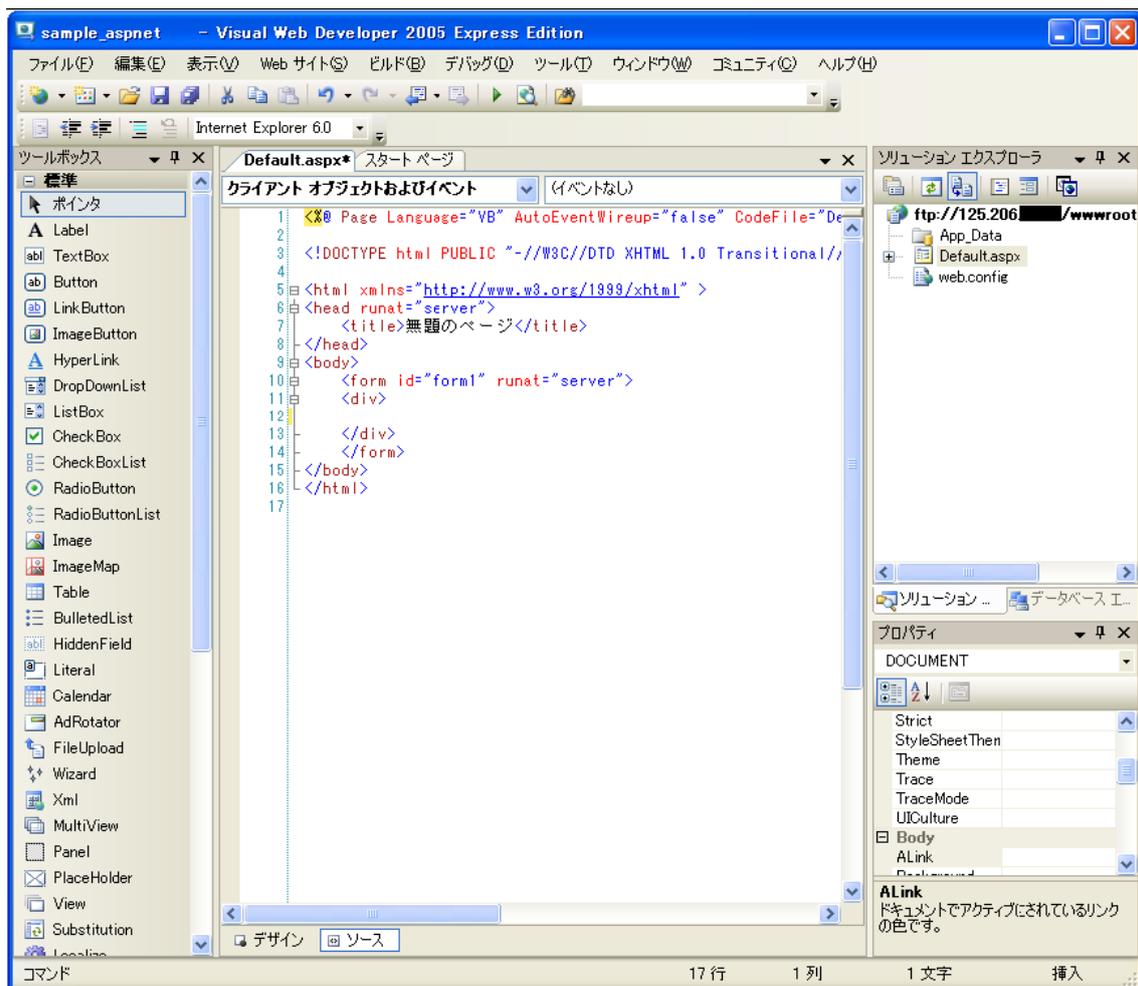
※一旦、クライアントPC 側でファイルを保存する場合は、[場所] にファイルシステムを選択し [参照] でローカルドライブのディレクトリーを選択し、別途 手動で仮想ディレクトリーの実ディレクトリーへファイルをアップロードします。



③ FTP サーバーの ユーザー名、パスワードを入力し [OK] をクリックします。



④ 初期ページのソース画面が表示されます。



3. データベースの作成

コントロールパネルにて、データベースの新規作成を行います。

(ホスティングサービスでは、Microsoft SQL Server にてデータベースを構築する事が出来ます。)

3.1 データベースの追加

① コントロールパネルを開き、左ペインの [ウェブサイト] を選択し、[データベース] をクリックします。

The screenshot shows the KDDI Hosting Service Control Panel. On the left sidebar, the 'ウェブサイト' (Website) menu is selected and highlighted with a red box. Underneath it, the 'データベース' (Database) option is also highlighted with a red box. The main content area shows several management options: 'ウェブサイトの設定' (Website Settings), 'データベース' (Database), 'ファイルマネージャー' (File Manager), 'DSNの管理' (DSN Management), and 'バックアップ' (Backup). The 'データベース' option is highlighted with a red box.

② 右ペインの [新しいデータベースを追加] をクリックします。

The screenshot shows the 'データベース' (Database) management page. At the top, there is a search bar with fields for 'ID', 'データベース名' (Database Name), 'データベースの種類' (Database Type), and 'ステータス' (Status). Below the search bar, the button '新しいデータベースの追加' (Add New Database) is highlighted with a red box. The page also shows a table with columns for 'ID', 'データベース名', 'データベースの種類', and 'ステータス'. The table currently contains 2 items.

- ② 新しいデータベースを追加する画面が表示されます。各項目を入力し、[完了] をクリックします。

サーバー管理 > メニュー > ウェブサイト > データベース Screen ID: ■■■■■

新しいデータベースの追加 リフレッシュ

新しいデータベースの情報

データベースタイプ: MS SQL (MSSQL Database) ▼

次へ >> キャンセル

サーバー管理 > メニュー > ウェブサイト > データベース Screen ID: ■■■■■

新しいデータベースの追加 リフレッシュ

新しいデータベースの情報

データベースタイプ: MS SQL

データベース名: db256484_sample_aspnet
(データベース名は128文字以上にする事はできません。最初の9文字はユニークで119文字まで入力可能です。)

データ容量の上限: 3 MB ▼
(サイズの上限は1MB以上に設定してください。)

トランザクションログ上限: 20 % ▼
(サイズの上限は1MB以上に設定してください。パーセントでのトランザクションログ容量制限の設定値は、データ容量に対して計算されます。)

新しいデータベースのユーザー情報

データベースのユーザー名: u256484_sample_aspnet
(データベースのユーザー名は128文字以上にする事はできません。最初の8文字はユニークで120文字まで入力可能です。)

パスワード: *****

新しいパスワードを生成

認証の種類: SQLサーバー認証
 Windows

次へ >> キャンセル

<< 戻る

サーバー管理 > メニュー > ウェブサイト > データベース Screen ID: ■■■■■

新しいデータベースの追加 リフレッシュ

i 概要:
新しいデータベースの作成準備ができました。下記のデータが正しいことを確認してください

新しいデータベースの情報

データベースタイプ: MS SQL

データベース名: db256484_sample_aspnet

データ容量の上限: 3 MB

トランザクションログ上限: 50 %

新しいデータベースのユーザー情報

データベースのユーザー名: u256484_sample_aspnet

パスワード: *****

認証の種類: SQLサーバー認証

完了 キャンセル

<< 戻る

- ④ ステータスが準備完了となりましたら データベースをご利用頂けます。

サーバー管理 > メニュー > ウェブサイト
データベース

検索: ID: データベース名: データベースの種類: ステータス:
RESET [] [] [すべて] [すべて] []

新しいデータベースの追加 [削除]

合計2 アイテム 1ページあたりの表示数: 25 50 100

ID	データベース名 ▲	データベースの種類	ステータス
16002	db256484_sample_aspnet	MS SQL	● 準備完了

3.2 テーブルの作成

- ① テーブルを作成するデータベースを選択します。

サーバー管理 > メニュー > ウェブサイト
データベース

検索: ID: データベース名: データベースの種類: ステータス:
RESET [] [] [すべて] [すべて] []

新しいデータベースの追加 [削除]

合計2 アイテム 1ページあたりの表示数: 25 50 100

ID	データベース名 ▲	データベースの種類	ステータス
16002	db256484_sample_aspnet	MS SQL	● 準備完了

- ② データベース情報欄の、[データベースの管理] 項目に表示されているURL をクリックします。すると、myLittleAdmin が起動します。

サーバー管理 > メニュー > ウェブサイト > データベース
db256484_sample_aspnet

全般 ユーザー 許可するウェブサイト

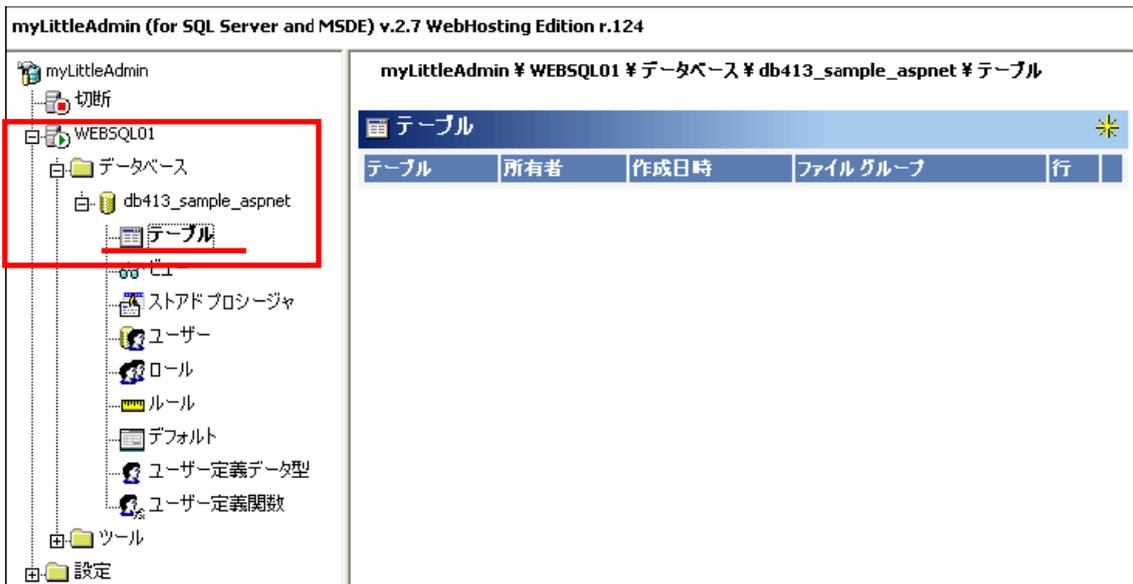
データベース情報

データベースの管理: <https://cp.kddihs.jp/mla/446/>

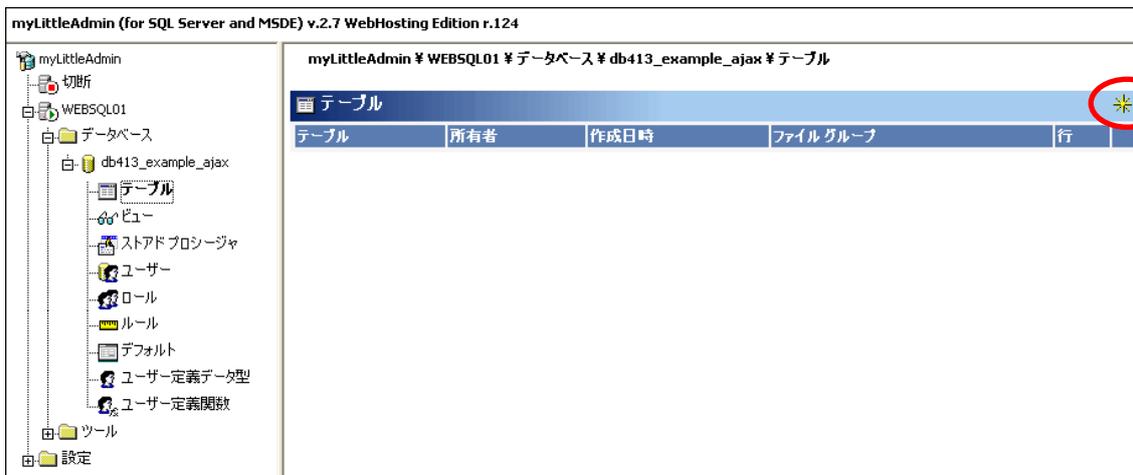
ID: 16002
データベース名: db256484_sample_aspnet
データベースタイプ: MS SQL
データ容量: 0 KB (0%)
(使用量は定期的にアップデートされますので現在の正確な使用量が表示されていない事があります)
データ容量の上限: 3 MB
トランザクションログ容量: 0 KB (0%)
(使用量は定期的にアップデートされますので現在の正確な使用量が表示されていない事があります)
トランザクションログ上限: 1.5 MB
ステータス: ● 準備完了
内部ネットワーク用ホスト名: websq[] .jp
ホストのポート: 1433

- ③ myLittleAdmin の左ペインの[WEBSQL01] - [データベース] - [作成したデータベース] を展開し [テーブ

ル] を選択します。



④ 右ペインの  のマークをクリックすると、新規テーブルを作成する事が出来ます。



- ⑤ 新規テーブル作成画面が表示されます。「名前」欄にテーブルの名前、「列数」欄に作成するテーブルの列数(カラム数)を入力します。[次へ] をクリックします。

myLittleAdmin > WEBSQL01 > データベース > db413_sample_aspnet > テーブル > 新規

新規テーブル

名前: tbl sample aspnet

テーブルファイルグループ: PRIMARY

TEXT/IMAGE ファイルグループ: PRIMARY

列数: 2

キャンセル 次へ

- ⑥ 新規テーブルの値を入力します。
このサンプルでは以下のように入力します。

id 列 :

[列名] → 「id」を入力

[データ型] → 「char」を選択

[長さ] → 「10」を入力

[NULL を許容] → チェックを外す。

data 列 :

[列名] → 「data」を入力

[データ型] → 「nvarchar」を選択

[長さ] → 「50」を入力

[NULL を許容] → チェックを入れる。

※SQL Server のデータベースで全角文字列のデータをテーブルに格納する場合、

文字化け防止の為、「char」「ntext」「nvarchar」のデータ型を使用します。

※NULL とは、何のデータも含まれない状態か、長さ0 の空文字列の事。

入力が完了すると、[作成] をクリックします。

myLittleAdmin ¥ WEBSQL01 ¥ データベース ¥ db413_sample_aspnet ¥ テーブル ¥ 新規

*** 新規テーブル**

名前: tbl_sample_aspnet

キー	列名	データ型	長さ	精度	小数部桁数	Nullを許容	既定値	Id.	Id.開始	Id.シート	Row GUID
<input type="checkbox"/>	id	char	10	0	0	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	data	nvarchar	50	0	0	<input checked="" type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/>

キャンセル 作成

⑦ テーブルが作成され、リストにテーブル名が追加表示されます。

myLittleAdmin ¥ WEBSQL01 ¥ データベース ¥ db413_sample_aspnet ¥ テーブル

テーブル

テーブル	所有者	作成日時	ファイルグループ	行
tbl_sample_aspnet	u413_sample_aspnet	6/19/2007 4:26:45 PM	PRIMARY	0

3.3 テーブルデータの作成

myLittleAdmin を使用し、作成したテーブル「tbl_sample_aspnet」にデータを1レコード追加します。

① テーブルリストの右側のアイコン列にある内容アイコン  をクリックします。

myLittleAdmin ¥ WEBSQL01 ¥ データベース ¥ db413_sample_aspnet ¥ テーブル

テーブル

テーブル	所有者	作成日時	ファイルグループ	行
tbl sample aspnet	u413 sample aspnet	6/19/2007 4:26:45 PM	PRIMARY	0

② テーブル内容画面が表示されます。行追加アイコン  をクリックします。

myLittleAdmin ¥ WEBSQL01 ¥ データベース ¥ db413_sample_aspnet ¥ テーブル ¥ [db413_sample_aspnet].[u413_sample_aspnet].[tbl_sample_aspnet]

テーブル内容

クエリー: SELECT * FROM [db413_sample_aspnet].[u413_sample_aspnet].[tbl_sample_aspnet]

検索行数: 0

処理 

id	data
0 / 0	

③ 行追加画面が表示されます。

このサンプルでは以下のように入力します。

id 列 :

[値] → 「01」を入力

data 列 :

[値] → 「sample01」を入力

入力が完了すると、[追加] をクリックします。

myLittleAdmin ¥ WEBSQL01 ¥ データベース ¥ db413_sample_aspnet ¥ テーブル ¥ [db413_sample_aspnet].
[u413_sample_aspnet],[tbl_sample_aspnet]

行追加

列	値
id*	<input type="text" value="01"/>
data	<input type="text" value="sample01"/>

*は、必須項目です

④ レコードが追加され テーブル内容欄に反映されます。

myLittleAdmin ¥ WEBSQL01 ¥ データベース ¥ db413_sample_aspnet ¥ テーブル ¥ [db413_sample_aspnet].
[u413_sample_aspnet],[tbl_sample_aspnet]

テーブル内容

クエリ : SELECT * FROM [db413_sample_aspnet].[u413_sample_aspnet],[tbl_sample_aspnet]
検索行数 : 1
処理 : *

id ▲▼	data ▲▼
01	sample01

1 / 1

メモ:

- ・クエリアナライザを使用し、「INSERT」「UPDATE」「DELETE」等のSQL を用いたデータ操作を行う事が出来ます。
- ・データベースのデータに全角文字列を使用すると、テーブル内のデータが文字化けを起こす場合がございます。その場合、SQL で「INSERT」や「UPDATE」にてレコード操作を行う場合は、扱うデータ文字列の前に N プレフィックスを付けます。

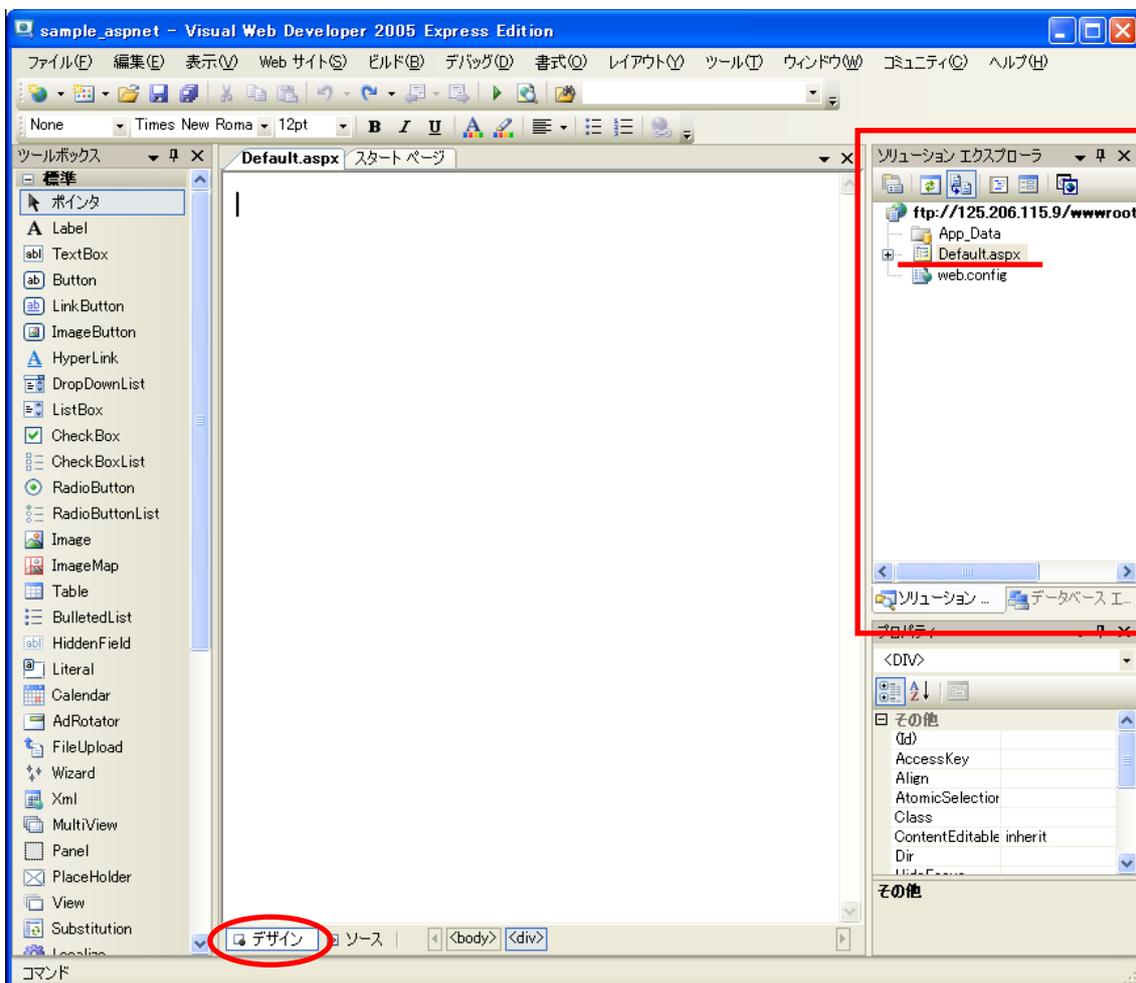
<例>

```
INSERT INTO tbl_sample_aspnet (id,data) values('02',N'全角データ02')
```

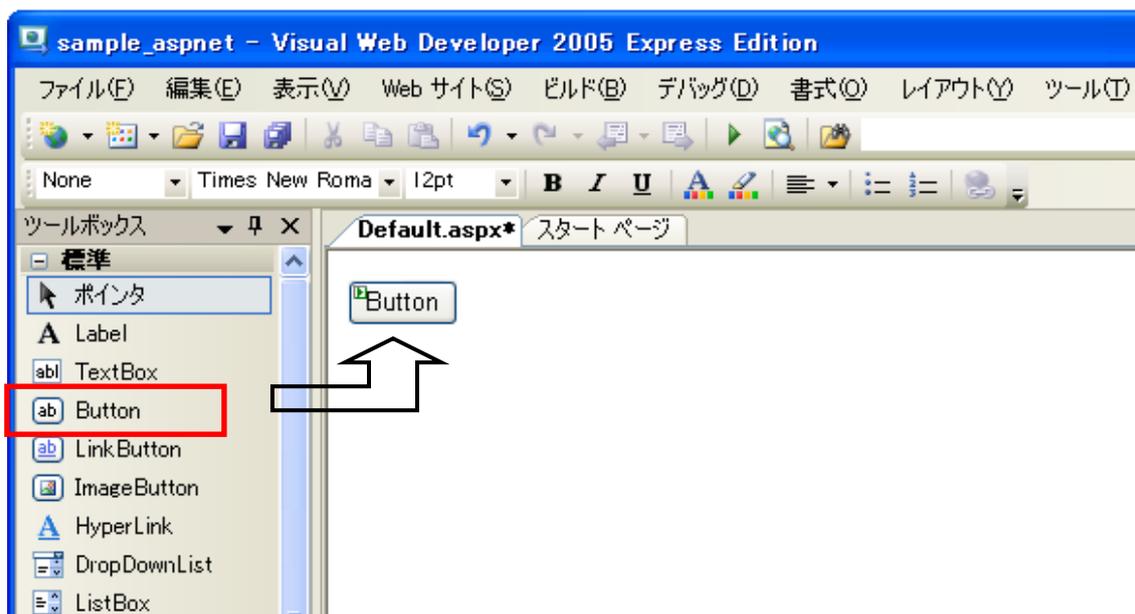
4 ASP.NET Web アプリケーションの作成

これまでに作成したデータベースをリスト表示する Web アプリケーションを ASP.NET 開発環境で作成します。

- ① Visual Web Developer 2005 を開き、[ソリューションエクスプローラー] の画面の「Default.aspx」をダブルクリックし左下の「デザイン」ボタンをクリック、デザイン画面を表示します。



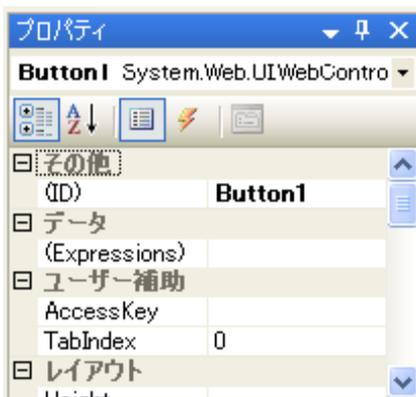
② ツールボックスから [Button] をドラッグ&ドロップで移動し デザイン画面上に「Button」を配置します。



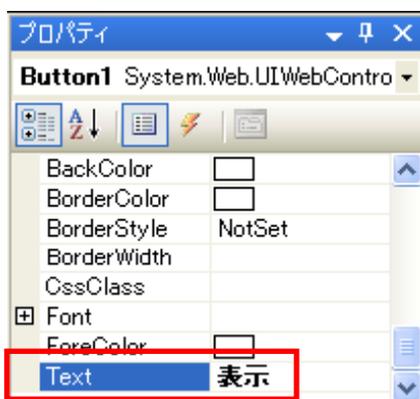
③ デザイン画面に配置した「Button」上で右クリックし [プロパティ] を選択します。



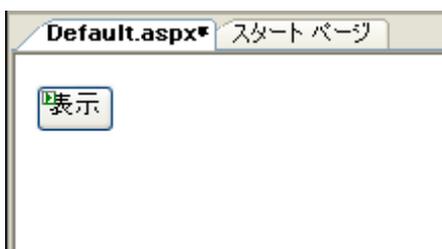
- ④ 画面右下に「Button」のプロパティが表示されます。



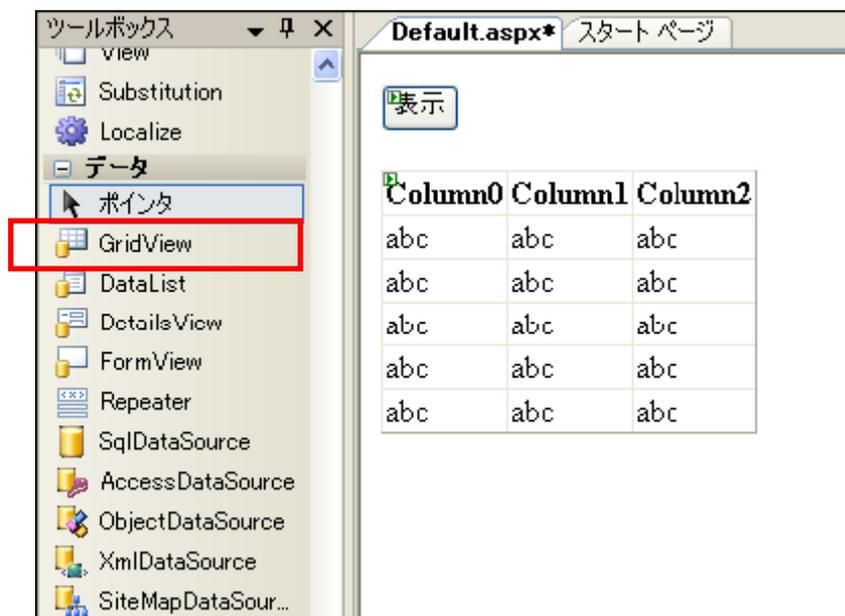
- ⑤ スクロールバーで下に移動し「Text」項目の右側のセルに「表示」と入力します。



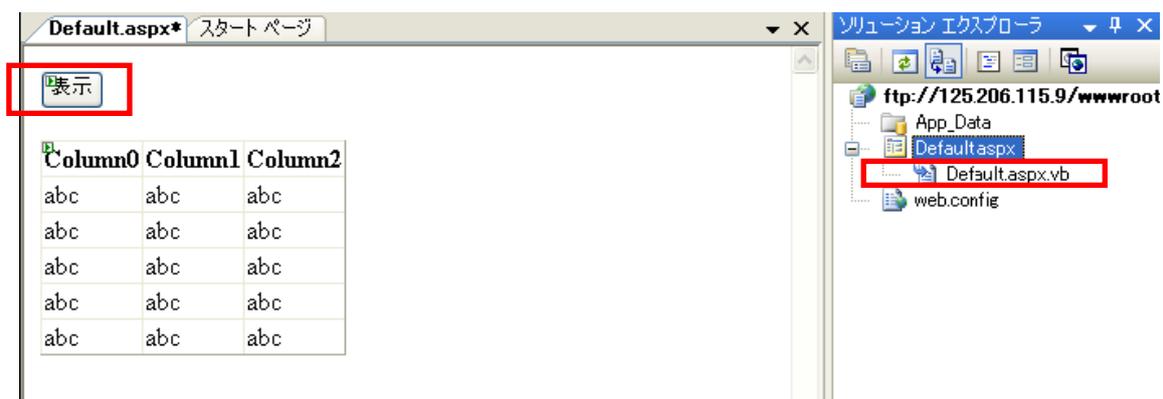
- ⑥ 「Button」の表示名が「表示」に変更されます。



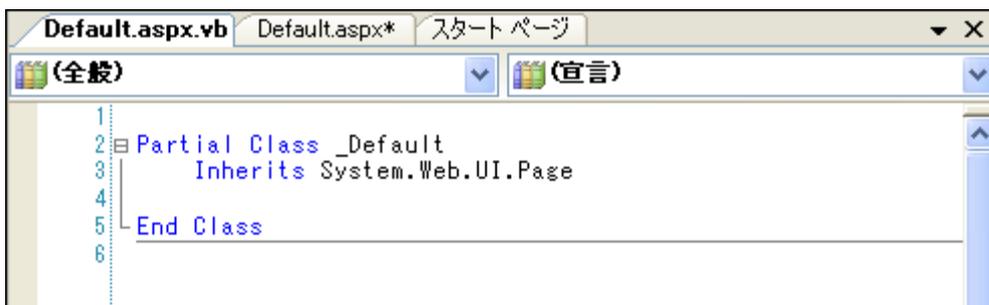
⑦ 次に、デザイン画面上に ツールボックスから「GridView」をドラッグ&ドロップで移動させ配置します。



⑧ 「表示」ボタンを ダブルクリック します。



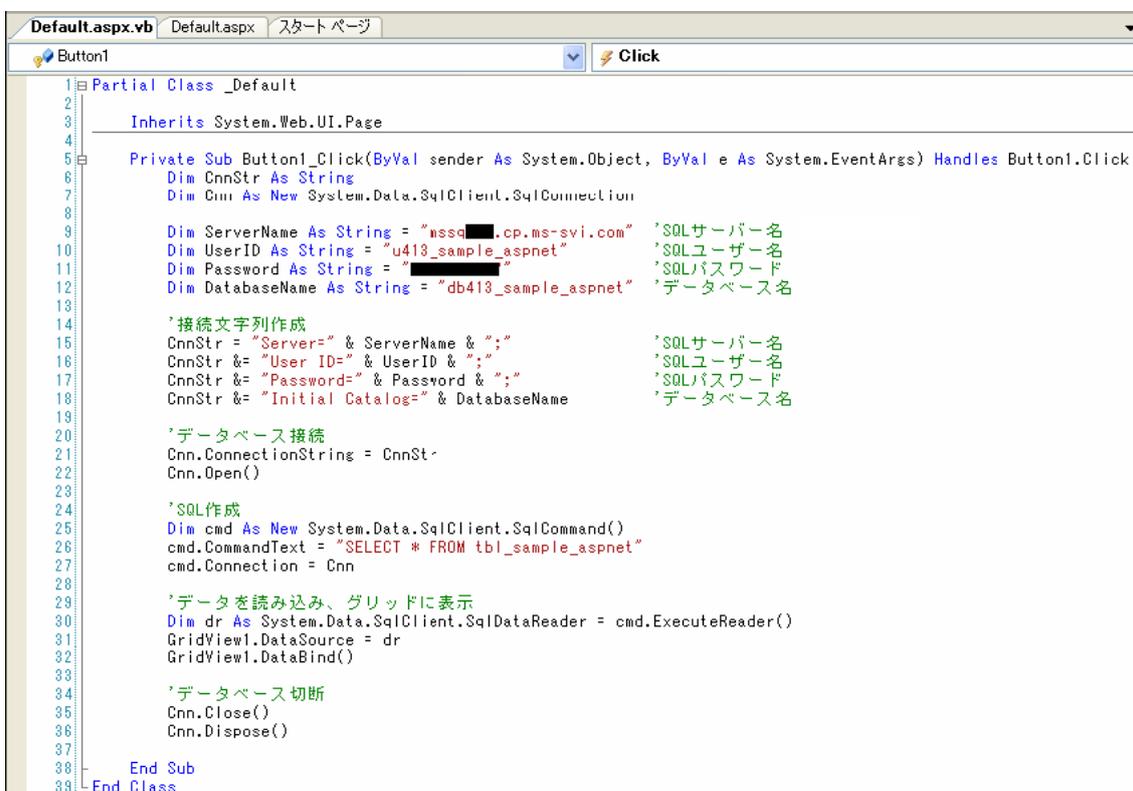
- ⑨ 「Default.aspx.vb」が表示され Visual Basic のコードを編集する事が出来ます。



```

1
2 Partial Class _Default
3     Inherits System.Web.UI.Page
4
5 End Class
6
    
```

- ⑩ このサンプルでは、以下のコードを入力。



```

1 Partial Class _Default
2
3     Inherits System.Web.UI.Page
4
5     Private Sub Button1_Click(ByVal sender As System.Object, ByVal e As System.EventArgs) Handles Button1.Click
6         Dim CnnStr As String
7         Dim Cnn As New System.Data.SqlClient.SqlConnection
8
9         Dim ServerName As String = "mssql[redacted].cp.ms-svi.com" 'SQLサーバー名
10        Dim UserID As String = "u413_sample_aspnet" 'SQLユーザー名
11        Dim Password As String = "[redacted]" 'SQLパスワード
12        Dim DatabaseName As String = "db413_sample_aspnet" 'データベース名
13
14        '接続文字列作成
15        CnnStr = "Server=" & ServerName & ";" 'SQLサーバー名
16        CnnStr &= "User ID=" & UserID & ";" 'SQLユーザー名
17        CnnStr &= "Password=" & Password & ";" 'SQLパスワード
18        CnnStr &= "Initial Catalog=" & DatabaseName 'データベース名
19
20        'データベース接続
21        Cnn.ConnectionString = CnnStr
22        Cnn.Open()
23
24        'SQL作成
25        Dim cmd As New System.Data.SqlClient.SqlCommand()
26        cmd.CommandText = "SELECT * FROM tbl_sample_aspnet"
27        cmd.Connection = Cnn
28
29        'データを読み込み、グリッドに表示
30        Dim dr As System.Data.SqlClient.SqlDataReader = cmd.ExecuteReader()
31        GridView1.DataSource = dr
32        GridView1.DataBind()
33
34        'データベース切断
35        Cnn.Close()
36        Cnn.Dispose()
37
38    End Sub
39 End Class
    
```

メモ:

SQL サーバー名は、CONTROL PANEL の [設定と管理] - [ウェブサイト] - [データベース] の右ペインで該当のデータベース名をクリックするとデータベース情報欄の [内部ネットワーク用ホスト名] 欄に表示されます。

① Visual Web Developer 2005 のメニューの [ファイル] - [すべてを保存] をクリックしファイルを保存します。

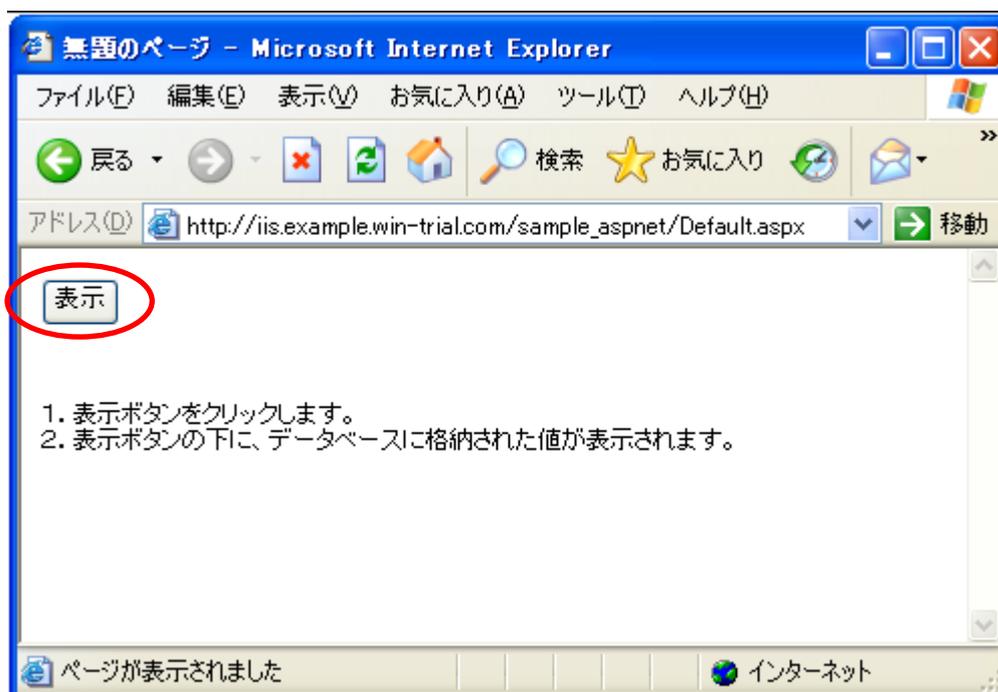


5 ASP.NET Web サイトの表示

これまでにWeb アプリケーションを実行し、データベースのテーブルのデータを表示します。

- ① ウェブアプリケーションをアップロードしたフォルダを ブラウザでアクセスし、[表示] ボタンをクリックします。

http://ドメイン名/仮想ディレクトリ名/



- ② 表示ボタンの下に、データベースに格納された値が表示されます。

